

授 業 科 目 の ね ら い

人間の理解

(9 単位 210 時間)

看護の対象は人間である。人間とは身体的・心理的・社会的に統合された唯一無二の存在である。この科目群では、生命や人間について学べるよう【生命の神秘】【生化学】【こころと機能】を設定した。

そして生命や人間が生きることや生きていくことに影響する、食、微生物、人間関係、教育について学べるよう【食とからだ】【人類と微生物】【看護と物理】【ボディワーク】【思考と論理】【教育の基礎】を設定した。

ねらい

生命の尊厳と人間がよりよく生きていくために必要な影響要因と人間関係について理解する。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
生命の神秘	1	15	看護の対象である人間について生物としてのヒトを理解する 生命の歴史を学び、生きていること、死ぬことについて考える	I. 人間の起源と進化 II. 細胞増殖 III. 遺伝子情報 IV. 人間の誕生から死 V. 生命維持の力
こころの機能	1	30	人間の心理・行動の基盤にある原理を理解し、メンタルヘルスについて学ぶ	I. 人間の心理と行動のしくみ II. こころの発達と危機 III. 自己理解 IV. 心理療法 V. カウンセリング理論と技法
看護と物理	1	30	看護の場面に必要な物理現象の基礎理論を学び、看護援助の根拠を理解する	I. 褥瘡予防 II. 転倒予防 III. 電解質 IV. ボディメカニクス、体位変換の根拠 V. バイタルサイン測定の根拠 VI. 静水圧と循環、体重による負荷の変化 VII. 薬剤の濃度と取り扱いの根拠
思考と論理	1	30	思考の形式や法則を理解し、論理的な思考力を養う	I. 思考の筋道 II. 論理的な文章
教育の基礎	1	15	学ぶことの意味と意義を理解し、学び方を学ぶ	I. 教育とは II. 学ぶ・学習するとは III. 考えるとは IV. わかる・理解するとは V. 主体的な学習方法
ボディワーク	1	15	非言語表現において、身体を道具として表現することでの相互作用を実践的に学ぶ	I. 自分の感覚を知る II. 気持ちと身体（動作） III. 身体でコミュニケーションをする
生化学	1	15	ヒトが生命現象を維持するための活動を分子レベルで理解する	I. 生体を構成する物質 II. 三大栄養素の代謝 III. 遺伝子情報

人類と微生物	1	30	微生物の特徴と人類に及ぼす影響を理解する	<ul style="list-style-type: none"> I. 微生物と人間 II. 細菌の性質と細菌感染症 III. 真菌の性質と真菌感染症 IV. 原虫の性質と原虫感染症 V. ウイルスの性質とウイルス感染症
食とからだ	1	30	食物の摂取が健康の維持・増進に関連していることを理解する	<ul style="list-style-type: none"> I. 健康づくりと食生活 II. ライフステージと栄養 III. 栄養素の種類とはたらき IV. 栄養状態の評価 V. 栄養ケア・マネジメント VI. 栄養指導

授 業 科 目 の ね ら い

— 暮らしの理解 —

(12 単位 210 時間)

看護は生活を支援する。生活の積み重ねが暮らしであるため、看護は暮らしを支援することにつながる。また、くらはしは健康に影響する。これからの医療は、地域包括ケアに基づいて地域で展開されることが増え、多様で複雑な状況下で看護を実践する能力が求められる。この科目群では、健康なくらしの現状を学ぶために【公衆衛生】を設定し、くらしに影響を与える法律や制度を学ぶため【関係法規】【社会福祉】【福祉制度の実際】【医療のしくみと未来】を設定し、制度がどのようにくらしを支えているか理解できるようにした。くらしの構成単位を家族、地域、社会、近隣国と比較して学べるよう【多様化する家族の理解】【京都文化の探求】【社会の変化とくらし】【中国語】【韓国語】を設定した。また、情報化社会の中で、情報を正しく収集し取り扱えるように【情報リテラシー】【情報と医療】【英会話】を設定した。

ねらい

人々のくらしのあり様を多方面から理解する。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
京都文化の探求	1	15	京都の文化と、くらしと人々の健康への影響について学ぶ	I. 京都の文化とくらし II. 京都の文化と健康
情報リテラシー	1	15	現代社会における情報の意味を理解し、情報発信や情報を得るための基礎的な知識を身につける	I. 社会と情報の価値 II. コンピューターリテラシーとセキュリティ III. 情報倫理
情報と医療	1	30	医療現場での電子情報の管理と活用を理解する 情報通信技術（ICT）の実際と未来を考える	I. 保健医療と電子情報 II. 看護と電子情報 III. 病院における情報システム IV. 多組織との情報共有 V. 患者の権利と情報開示（カルテ開示） VI. 遠隔診療 VII. 電子カルテ活用のための技術
社会の変化とくらし	1	15	日本社会の変化と人々のくらしの変化の関係を理解し、現代社会の諸問題について学ぶ	I. 高度経済成長とくらし II. 外国人労働者の現状とくらし III. 労働のあり方とくらし IV. 災害とくらし
英会話	1	15	英語によるコミュニケーション力を身につけ、医療場面での活用方法を学ぶ	I. リスニング II. 英語での日常会話 III. 医療場面での英会話
中国語選択	1	15	中国語によるコミュニケーション力を身につけ、異文化についても学ぶ	I. リスニング II. 中国語での日常会話 III. 中国の習慣・文化・医療制度
韓国語選択	1	15	韓国語によるコミュニケーション力を身につけ、異文化についても学ぶ	I. リスニング II. 韓国語での日常会話 III. 韓国の習慣・文化・医療制度
多様化する家族	1	15	家族の意味と役割を学び、現代社会における多様な家族のあり方について学ぶ	I. 家族とは II. 家族の構成とライフサイクル III. 家族機能 IV. 現代の家族とその課題 IV. 家族アセスメント家族の罹患

医療のしくみ と未来	1	15	保健医療福祉のしくみと 変遷、現在の状況と今後 の課題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> I. 医療の動向 II. 医療従事者としての心構え 医師の役割 III. 医療従事者が活躍する場 IV. 医療と経済 V. 保険診療と全額自己負担診療の 違い VI. 医療の未来（医療技術編） VII. 医療の未来（国民衛生編）
公衆衛生	1	30	人間とその環境・免疫・ 看護統計・個人衛生を学 び、生活者の健康増進の ために広く社会における 統合的かつ組織的な公衆 衛生活動について理解す る	<ul style="list-style-type: none"> I. 公衆衛生の概念 II. 公衆衛生の対象と手法 III. 医療の動向と医療保障 IV. 地域保健の動向と地域保健 V. 母子保健の動向と母子保健 VI. 学校保健の動向と学校保健 VII. 成人保健の動向と成人保健、 生活習慣 VIII. 老人保健の動向と老人保健 IX. 精神保健の動向と精神保健 X. 産業保健の動向と産業保健 XI. 感染症の動向と感染症対策 XII. 生活環境 XIII. 公衆衛生と国際化
福祉制度の 実際	1	15	社会保障制度の内容を理 解し、事例に合わせた制 度の活用を考える	<ul style="list-style-type: none"> I. 母子保健制度の活用 II. 障害者総合支援法の活用 III. 精神保健福祉法の活用 IV. 事例検討
社会福祉	1	15	社会福祉の歴史や社会保 障に関わる専門的・技術 的・行政サービスについ て理解する	<ul style="list-style-type: none"> I. 社会保障とは II. 医療保障 III. 介護保障 IV. 所得保障 V. 公的扶助 VI. 高齢者福祉 VII. 障害者福祉 VIII. 児童福祉
関係法規	1	15	看護業務や携わる人の身 分や業務に関する法の理 解と、国民の健康な生活 を維持するための必要な 法令を理解する	<ul style="list-style-type: none"> I. 法 の 概 念 II. 医 事 法 III. 保 健 衛 生 法 IV. 薬 務 法 V. 社 会 保 障 法 VI. 労 働 法 と 社 会 基 盤 整 備 VII. 環 境 法

授 業 科 目 の ね ら い

健康の理解

(18 単位 435 時間)

看護の目的は、対象にとって最良な健康状態になるように支援することである。この科目群では、調和のとれた状態を理解するため【呼吸循環血液の解剖生理】【脳神経運動消化の解剖生理】【腎内分泌の解剖生理】を設定した。調和のとれた状態から疾病に至るまでのメカニズムを理解するために【病理学】【呼吸循環の病態生理】【消化代謝の病態生理】【体液調整免疫の病態生理】【脳神経骨筋肉の病態生理】【こころの病態生理】を設定した。診断に必要な検査を理解するため【検査と看護】を設定した。疾患と治療を理解するために【呼吸器循環器血液系の疾患と治療】【消化器腎泌尿器系の疾患と看護】【脳神経運動器系の疾患と治療】【女性に関わる疾患と治療】【くすりと人体】【くすりと看護】を設定した。

ねらい

調和のとれた状態、疾病のメカニズムと治療を理解する。

対象にとって最良の健康状態とその支援について考えるための知識を身につける。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
呼吸循環 血液の 解剖生理	1	30	人体がどのような構造と機能によって構成されているか理解する 生きていることを支える体の仕組みを理解する	I. 呼吸 II. 循環 III. 血液・体液
脳神経 運動消化の 解剖生理	1	30	人体がどのような構造と機能によって構成されているか理解する くらしの営みである（日常生活行動の）食べる、排泄する、動く、話す、聞く、眠ることを理解する	I. 脳神経 II. 運動器 III. 消化器
腎内分泌の 解剖生理	1	30	人体がどのような構造と機能によって構成されているか理解する くらしの営みである（日常生活行動の）排泄する、成長する、ストレスへの対応を理解する	I. 腎臓 II. 内分泌 III. 生体防御と適応
病理学	1	30	疾病の成り立ちと症状を臓器・組織・細胞の変化のメカニズムから理解する	I. 病理学を看護師が学ぶ意義 II. 炎症 III. 免疫 IV. 感染 V. 循環障害 VI. 組織の再生と加齢変化(老化) VII. 先天異常と遺伝性疾患 VIII. 腫瘍
呼吸循環の 病態生理	1	30	正常の生理が障害された結果、どのようなしくみで疾病が引き起こされるのかを理解し、病態のメカニズムと回復促進の原理について理解する	I. 循環のしくみと病態生理 II. 呼吸のしくみと病態生理
消化代謝の 病態生理	1	30		I. 消化・吸収のしくみと病態生理 II. 内分泌・代謝のしくみと病態生理
体液調整 免疫の 病態生理	1	30		I. 体液調節のしくみと病態生理 II. 腎・泌尿器のしくみと病態生理 III. 免疫のしくみと病態生理 IV. 血液のはたらきと病態生理

脳神経 骨筋肉の 病態生理	1	30	正常の生理が障害された結果、どのようなしくみで疾病が引き起こされるのかを理解し、病態のメカニズムと回復促進の原理について理解する	I. 脳神経のはたらきと病態生理 II. 感覚器のはたらきと病態生理 III. 運動制御のしくみと障害 IV. 骨のはたらきと病態生理
こころの 病態生理	1	15	精神の健康のバランスが崩れるプロセスと回復過程について、概念モデルから理解する	I. 医学モデルからの理解 II. 精神分析モデルからの理解 III. 社会モデルからの理解 IV. コミュニケーションモデルからの理解
くすりと 人体	1	30	薬物の特性と作用機序、人体への影響を理解する	I. くすりの基礎知識 II. 神経に作用する薬物 III. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 IV. 心臓・血管系に作用する薬物 V. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 VI. 物質代謝に作用する薬物 VII. 抗感染症薬 VIII. 免疫抑制剤 IX. 抗がん薬 X. 皮膚科用薬、眼科用薬 XI. 輸血・血液製剤 XII. 漢方薬
くすりと 看護	1	15	薬物療法の実際と薬剤医療事故を予防するための知識を理解する	I. 薬理作用のメカニズム II. 医薬品の管理と情報 III. 注意を要する医薬品
検査と看護	1	30	疾病を診断するための検査とその看護を理解する	I. 検体検査 II. 生理検査 III. 病理検査、検査時の看護 IV. 画像診断 V. 検査技師・放射線技師の役割 検査時の看護師の役割
呼吸器 循環器 血液系の 疾患と治療	1	30	呼吸器、循環器、血液・造血器系の代表的な疾患をもとに、病態の理解を深め、必要な治療について学ぶ	I. 呼吸器の疾患 II. 循環器の疾患 III. 血液・造血器の疾患

<p>消化器 腎泌尿器系 の疾患と 治療</p>	1	15	<p>消化器、腎・泌尿器系の代表的な疾患をもとに、病態の理解を深め、必要な治療について学ぶ</p>	<p>I. 消化器の疾患 II. 腎・泌尿器の疾患</p>
<p>脳神経 運動器系の 疾患と治療</p>	1	15	<p>脳神経、運動器系の代表的な疾患をもとに、病態の理解を深め、必要な治療について学ぶ</p>	<p>I. 脳神経 II. 脳血管障害 III. 頭蓋内圧亢進 IV. 神経難病 V. 骨折 VI. 脊髄損傷 VII. 変形性関節症</p>
<p>女性に 関わる 疾患と治療</p>	1	15	<p>対象の各ライフサイクルにおける特徴や健康障害を学び、健康の維持・増進のために必要な支援を理解する</p>	<p>I. 女性に関わる疾患の看護を学ぶにあたって II. 女性生殖器の構造と機能 III. 症状とその病態生理 IV. 診察・検査と治療・処置 V. 疾患の理解</p>
<p>子どもの 健康障害</p>	1	15	<p>子どもに起こりやすい健康障害の成り立ちおよび、治療について理解する</p>	<p>I. 子どもに起こりやすい健康障害</p>
<p>精神機能 障害の理解</p>	1	15	<p>精神機能障害の発症に影響する要因やその症状と診断、検査、治療の考え方について理解する</p>	<p>I. 精神機能を障害した人の基本的知識 II. 精神機能障害の病理と症状・治療 III. 精神機能障害の診断に必要な検査</p>

授 業 科 目 の ね ら い

看護の基礎

(19 単位 495 時間)

看護は、対象に応じて実践する。場や状況や対象が異なっても共通する考え方や技術があり、それを場や状況、対象に応じて活用する。これが看護実践能力である。この科目群では、看護実践の基礎となる倫理や看護の考え方を学ぶため【看護と倫理】【看護への招待】【リフレクション】【看護展開プロセス】を設定した。正確な診察方法と情報からのアセスメントを学ぶため【呼吸・循環器系フィジカルアセスメント】【消化器・脳神経・運動器系のフィジカルアセスメント】を設定した。正確な看護技術と対象に応じた看護が実践できるために【感染予防技術】【呼吸・循環を整える技術】【与薬における技術】【人間関係を成立発展させる技術】【環境と活動を援助する技術】【清潔を援助する技術】【食と排泄を援助する技術】を設定した。看護の対象は、地域でくらす生活者である。生活者への看護を考えられるように【地域でくらす人の健康を守る】【身近な人の健康を守る】を設定した。看護の対象はあらゆる健康段階の人々である。すべての看護に共通する健康段階に応じた看護が考えられるよう【急激な健康破綻状態を支える看護】【セルフマネジメントを支える看護】【人生の最期を支える看護】【障がいを抱えた人の回復を支える看護】を設定した。

ねらい

看護実践に必要な思考力と実践能力を身につける。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
看護と倫理	1	15	看護における倫理の基礎を理解し、倫理的課題についての向き合い方を学ぶ	I. 倫理・法・道德の関係 II. 看護師の倫理綱領 III. 倫理原則 IV. 患者の権利と倫理 V. 倫理的課題と判断
看護への招待	1	15	看護の定義、役割・機能を理解し、看護に関心を持ち、看護を学ぶ意義を理解する	I. 看護の役割と機能 II. 看護を学ぶとは
リフレクション	1	15	リフレクティブプロセスを学び、看護実践の意味を見出す意義を理解する	I. 看護師がリフレクションを行う意義 II. リフレクションの実践 III. リフレクションと臨床判断能力
人間関係を成立発展させる技術	1	15	看護は、対象と家族、および多職種チームとの円滑な人間関係を構築しながら、よりよいケアを実践する営みであることを理解する。さらに、看護実践の基盤となるコミュニケーションの意義と知識を理解する	I. 人間関係の基盤になるもの II. コミュニケーション論 III. 看護におけるコミュニケーション IV. 対象や状況に応じたコミュニケーション
感染予防技術	1	15	感染とその予防方法を理解し、無菌操作を習得する	I. 感染とは II. 感染予防策 III. 洗浄・消毒・滅菌 IV. 無菌操作と医療廃棄物の取り扱い
看護展開プロセス	1	30	看護実践を系統的な思考方法のもと、検証・探求するプロセスを理解する	I. 視点を持ったアセスメント II. 健康問題の特定 III. 看護計画 IV. 看護の評価
呼吸・循環器系 フィジカルアセスメント	1	30	バイタルサインと観察・問診によるアセスメントの思考プロセスを理解する フィジカルイグザミネーションを習得し、フィジカルアセスメントの思考プロセスを理解する	I. バイタルサイン測定とアセスメント II. 呼吸器系のフィジカルアセスメント III. 循環器系のフィジカルアセスメント IV. 呼吸・循環器系のフィジカルアセスメントと看護

<p>消化器・ 脳神経・ 運動器系 フィジカル アセス メント</p>	1	30	<p>ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性を理解する フィジカルイグザミネーションを習得し、フィジカルアセスメントの思考プロセスを理解する</p>	<p>I. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント II. 脳神経・運動器系のフィジカルアセスメント III. 消化器系のフィジカルアセスメント</p>
<p>呼吸・循環 を整える 技術</p>	1	30	<p>援助の根拠となるメカニズムを理解し、呼吸・循環を整えるための援助を理解する</p>	<p>I. 診療に伴う援助 II. 酸素吸入療法 III. 排痰ケア IV. 口腔・鼻腔内吸引</p>
<p>与薬に おける 技術</p>	1	30	<p>薬剤の特徴、体内動態を理解し、 正しい与薬・薬剤の管理・実施方法を理解する</p>	<p>I. 与薬の基礎知識 II. 経口与薬・口腔内与薬 III. 各種与薬法の実際 IV. 注射の基礎知識と実施法 V. 輸血管理</p>
<p>環境と活動 を援助する 技術</p>	1	30	<p>日常生活援助の原理原則を理解し対象に応じた判断、援助を理解する</p>	<p>I. 基本的活動の知識 II. 移動の援助 III. 移乗の援助 IV. 睡眠と休息の援助 V. 移動にかかわる環境調整 VI. 療養生活における環境の基礎知識 VII. ベッド周囲の環境整備 VIII. ベッドメーカー IX. リネン交換 X. 環境整備の応用</p>
<p>清潔を援助 する技術</p>	1	30	<p>日常生活援助の原理原則を理解し対象に応じた判断、援助を理解する</p>	<p>I. 清潔援助の基礎知識 II. 清潔援助の実際 III. 衣生活援助の基礎知識と実際 IV. 清潔援助の応用</p>
<p>食と排泄を 援助する 技術</p>	1	30	<p>日常生活援助の原理原則を理解し 対象に応じた判断、援助を理解する。</p>	<p>I. 栄養状態、および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント II. 非経口的栄養摂取 III. 自然排尿および自然排便 IV. 食・排泄の援助</p>
<p>身近な人の 健康を守る</p>	1	30	<p>身近な人が生活する地域や住宅環境について学び、その人の健康、生活を支援するための看護について考える</p>	<p>I. 身近な人がくらす地域の課題 II. 生活環境の調整 III. 身近な人の健康管理と課題 IV. 身近な人の健康を守る看護</p>

地域でくらす人の健康を守る	1	30	地域で生活する多様な生活者を理解するための視点を学習し、対象の特性に応じた看護実践の基本的姿勢を学ぶ	<p>I. 地域・在宅ケアを必要とする背景</p> <p>II. 地域・在宅看護の定義と目的・位置づけ</p> <p>III. 地域・在宅看護の基本理念</p> <p>IV. 地域療養を支える制度と社会資源</p> <p>V. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能</p> <p>VI. 地域における多職種連携・協働</p>
急激な健康破綻状態を支える看護	1	30	急激な健康破綻により急性期から回復の過程をたどる対象の特徴的な健康問題を理解し、臨床判断のプロセスに基づいて、対象の回復の過程を支援するため看護について学ぶ	<p>I. 急激な健康破綻をきたした対象の特徴と理解</p> <p>II. 急性期にある人の看護</p> <p>III. 救急救命</p> <p>IV. 周手術期看護の理解</p>
セルフマネジメントを支える看護	1	30	慢性の疾病経過をたどる対象の特徴的な健康問題を理解し、臨床判断のプロセスに基づいて、対象のセルフマネジメントを支援する看護を学ぶ	<p>I. 慢性病を持つ対象の特徴と理解</p> <p>II. 慢性病との共存を支える看護の実際</p>
人生の最期を支える看護	1	30	人生の最期にある対象の特徴的な健康問題を理解し、全人的視点からの対象理解を基に、対象のその人らしく人生を生き抜くことを支援する看護を学ぶ	<p>I. 人生の最期における医療の現状</p> <p>II. 人生の最期を過ごしている人の理解</p> <p>III. 人生の最期を支える看護の実際</p>
障がいを抱えた人の回復を支える看護	1	30	心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした対象とその家族が、障がいを抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程への支援と看護を学ぶ	<p>I. リハビリテーション看護の考え方</p> <p>II. 障がい者施策と倫理的課題</p> <p>III. 経過別リハビリテーション</p> <p>IV. リハビリテーションを必要とする人への看護援助</p> <p>V. 生活機能障害別リハビリテーション看護</p>

授 業 科 目 の ね ら い

対象に応じた看護

(15 単位 390 時間)

看護の対象は、あらゆる健康段階、発達段階にある人々である。この科目群は、「人間の理解」「くらしの理解」「健康の理解」「看護の基礎」で学んだことを統合し、「地域・在宅」「成人」「老年」「母性」「小児」「精神」の視点で対象をとらえ、看護を実践できるように設定した。

ねらい

対象に応じた看護を実践する能力を身につける。

— 地域・在宅看護 —

＜科目設定の理由＞

少子高齢や疾病構造の変化、在院日数の減少、地域包括ケアシステムの推進により、療養の場が在宅へ広がり、看護を提供する場も地域へ拡大している。そして、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように地域・在宅看護の社会的ニーズは増大している。このような社会背景をふまえ、地域や地域で暮らす人々を理解したうえで看護を提供する必要がある。

地域・在宅看護では、あらゆる発達段階や健康段階にある個人・家族、地域で暮らす人々を対象とし、生活者として捉えることが重要である。地域で生活する個人・家族を連続体として捉えるとともに、各々が地域社会の構成員であり、対象の多様な生活様式や価値観を持っている人として理解する必要がある。地域で暮らす対象を理解し、対象の生活に視点をあて、疾患や障がいとともに生活を送る中で健康上の課題が生活に与える影響を理解することをめざす。

更に、対象の生活を支える為には、対象の自己決定を見守り、限られた時間や情報の中で対象とその家族の療養上の課題を判断・予測し、対象に応じた看護を実践できる能力を身につける必要がある。又、看護の継続には、地域の関係機関・多職種との連携・協働が欠かせないことから地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を理解し、チームの中で関係調整ができる力も培うことが重要である。

以上のことから

【在宅看護の実際】は生活の場での看護技術を学び、望むくらしの実現に向けた支援の実際を理解する。【在宅看護のプロセス】は対象の望むくらしを実現する為の看護アプローチを理解する内容とした。

ねらい

地域・在宅看護は、対象の生活基盤である地域を理解し、対象とその家族の生活に視点をあて、疾患や障がいとともに生活を送る中で健康上の課題が生活に与える影響を理解する。

そして、対象の望むくらしの実現に向けて生活を支える為には、地域の関係機関・多職種との連携・協働が欠かせないことから、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を理解し、チームの中で関係調整ができる能力を養うことをねらいとする。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
在宅看護の 実際	1	30	生活の場での看護技術を学び、望むくらしの実現に向けた支援の実際を理解する	I. 訪問看護の心得 II. ヘルスアセスメント III. 生活環境の調整、事故予防 IV. 生活の場での日常生活援助 V. 生活の場での医療管理、療養生活支援 VI. 介護者・家族への指導、助言 VII. 在宅看護における災害看護
在宅看護の プロセス	1	15	対象の望むくらしを実現する為の看護アプローチを理解する	I. ICFモデルと在宅看護過程 II. 在宅看護過程の展開 III. 生活の場における看護

—成人看護—

＜科目設定の理由＞

成人期は、青年期・壮年期・中年期・向老期ライフサイクルの中でも最も長く、充実する時期である。身体的には成長・成熟・衰退と変化し、精神的には成熟し、自立して生活することが社会から期待され、また次世代を育む役割を担うことになる。

成人看護では、このようなおとなを対象に、おとなの健康支援について学ぶために【おとなの特徴と健康支援】【おとなの健康を支える実習】を設定した。

ねらい

変動する社会生活の中で生きるおとなは、社会における期待や役割、責任を担うと同時に、次世代を育むことに力を注ぐ時期である。さらに成人期にある人々は、身体的・精神的および経済的に自立して生活することが社会から期待されている。それは約50年間と長きにわたることとなる。このような特徴をもつおとなと健康の関係性について学び、おとなの健康管理の必要性と重要性について学習し、おとなへの看護アプローチの方法について学ぶ。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
おとなの特徴と健康支援	1	30	おとなの特徴とおとなの健康との関係性を理解し、おとなの健康を支援する必要性と重要性について学ぶ さらにおとなの特徴とおとなの健康との関係性の理解を基盤に大人への看護アプローチの方法を学ぶ	I. おとなの特徴 II. おとなを取り巻く環境と生活の状況 III. おとなの健康の状況 IV. おとなの看護アプローチの基本 V. おとなのヘルスプロモーション VI. おとなの健康を促すための看護技術

—老年看護—

<科目設定の理由>

超高齢社会に向かっている現在、人生 100 年と言われるようになり年齢をどのように積み重ねて生きてきたのか、生きて行きたいのかが多様になっている。対象の価値観を尊重し、多様な生活環境に合わせ、その人らしく生活し続けられるように支援することを老年看護の目的とする。

【老いを生きる】では、誰にでも訪れる加齢変化により、高齢者の生活や心理社会的側面に大きな影響を及ぼすことが学べるように設定した。健康上の課題も複雑で生活機能に大きく影響するため【高齢者の生活機能を支える】では、身体的な不自由さに対する支援を学ぶ。【入院治療が必要な高齢者の看護実践】では、治療に伴う影響と早期退院に向けた看護展開と技術を学び、【高齢者の健康を支える実習】では、生活機能の維持・回復、社会資源の活用と継続看護について学ぶ内容とした。

老年期にある人の健康上の課題を理解し、対象の状況に応じた継続的な支援が行えるための学習をすすめていく。学生が、高齢者それぞれの歩んできた人生にふれ、多くのことを学び感じてほしい。

ねらい

老年期にある対象を理解し、加齢と健康障害の状況に応じた看護実践力を養う。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
老いを生きる	1	30	加齢変化に伴う身体的・心理社会的変化を学ぶ また、医療の進歩や社会情勢が、死というゴールが近づきつつ生きている人々への影響を理解する	I. 高齢者の定義・加齢と老化 II. 平均寿命・健康寿命・社会保障 III. 権利擁護 IV. 保健医療福祉の動向と介護保険、介護保険サービスサービスを利用した1日・1か月 V. (身体) 加齢変化とアセスメント VI. 心理的側面の変化 VII. フィジカルアセスメント、総合的査定方法 VIII. 老年看護の役割・理論・概念
高齢者の生活機能を支える看護	1	30	加齢変化に伴う身体的な不自由さに対するの支援と健康状態を維持するための支援を学ぶ	I. 高齢者とのコミュニケーション II. 基本動作と転倒 III. 食事・食生活の支援 IV. 尊厳と排泄ケア V. 清潔ケアと健康課題 VI. 生活リズムを整える VII. 脱水予防 VIII. 感染症予防 IX. 服薬管理
入院治療が必要な高齢者の看護実践	1	15	環境や治療に伴う影響と早期退院に向けた高齢者の看護展開と技術を学ぶ	I. 入院に伴う高齢者の影響と入院時の情報収集 II. 高齢者に対するの検査・治療 III. 現状維持と安全優先のアセスメント IV. グループ発表

－母性看護－

＜科目設定の理由＞

母性看護は、女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。近年、女性を取り巻く社会環境の変化は著しく、晩婚化・出生率の低下など様々な社会問題を生み出している。この様な女性の生涯や役割の多様化、医学の進歩・発展、人口の少子化、母子をめぐる生活環境の著しい変化などによって、母性看護の役割はますます拡大されている。現在、母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てるべき女性および過去においてその役目を果たした女性のみならず、生涯を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から、女性と生殖や育児のパートナー、乳幼児を育てる家族、その家族が生活する地域社会をも含む。このような母性看護の役割拡大から、【母性の対象とヘルスプロモーション】では、女性の一生を通し対象の健康の保持・増進をめざした看護を基盤とする基礎教育における母性看護学の基本概念を理解するとともに、人間の性と生殖の側面から、女性の全生涯を通じた健康生活の促進と健康問題への援助活動を学び、更に、母性看護の対象を取り巻く社会の動向と現状を学び、母性看護の役割と重要性についての学びを深める。【母性看護の実際】では、母性各期と新生児を含めた健康問題や異常状態についての理解を深め、その援助の実際を学ぶ。【母性看護技術の実際】では対象を周産期に絞り、エンパワメントを促進できる母児の看護過程の演習と母性各期の看護に必要な技術と社会資源について理解し、科学的根拠に基づき対象を統合的に捉え看護展開できる能力と正確で安全な看護技術が実践できる能力を身につけられることを目指す。【マタニティサイクルを支える実習】では、周産期にある対象と家族、地域における保健活動を理解し、対象のセルフケアを支える看護を学ぶ。母性の対象が、いのちをつなぐことで次世代を育成することになり、そのためにまずは自分自身を大切に感じることを、自分の居場所で自分らしく生きることが尊重できる社会に導けることを期待したい。

このような母性看護での学びから、人間理解や看護の本質を深め、主体的・積極的に看護を探究していく学生の看護観の育成につなげたい。

ねらい

セクシュアリティ（人間の性）とリプロダクティブヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）およびヘルスプロモーション（健康増進）を学ぶことで、性と生殖における基本的な考え方や母性看護の概念およびその特徴を理解する。また、各ライフサイクルにある様々な状況の対象のセルフケアを支える看護が実践できることをめざす。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
母性の対象とヘルスプロモーション	1	30	母性看護の概念およびその特徴を学び、幅広く捉えた母性看護の対象を取り巻く社会の動向と母子保健の現状を理解する ライフサイクルにおける対象の身体的・心理的・社会的および霊的側面とその特徴を理解し、各ライフステージにある対象への看護を理解する	I. 母性看護学の基盤となる概念 II. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 III. 母性看護の対象理解 IV. 母性看護に必要な看護技術 V. 女性のライフステージ各期における看護 VI. リプロダクティブヘルスケア
母性看護の実際	1	30	母性各期と新生児を含めた健康課題や異常状態についての理解を深め、援助の実際がわかる	I. 子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって II. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア III. 妊娠期における看護 IV. 分娩期における看護 V. 新生児期における看護 VI. 産褥期における看護 VII. 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常
母性看護技術の実践	1	30	エンパワメントを促進できる母児の看護過程の演習と母性各期の看護に必要な技術と社会資源について理解する	I. 妊婦の健康査定のための情報収集とアセスメント II. 妊婦の疾病予防と健康増進への援助 III. 産婦の情報収集とアセスメント IV. 褥婦の情報収集とアセスメント V. 新生児の情報収集とアセスメント VI. 周産期の事例による看護過程

—小児看護—

<科目設定の理由>

子どもは大きな可能性を秘めた未来を担う存在である。しかし昨今の子どもと家族を取り巻く環境の変化は甚だしく、子ども観とともに母親観、育児観も変化しており、子どもと家族の健やかな成長・発達が育まれることも危ぶまれている。

その中で、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、子どもと家族の最善の利益を守り、より健康的な成長・発達を支援するために看護が果たす役割は大きい。

絶えず成長・発達し続け、環境に影響されやすい子どもの特性と、小児各期の形態的および心理・社会的特徴を理解し、子どもの権利を学び、健康障害をもつ子どもと家族の看護および看護実践、また子どもと家族の健康を支える実習の基礎となる科目として、【子どもの成長・発達と健康支援】を設定した。

また、成長・発達過程にある子どもと家族が健康障害をもつことで、どのような影響を及されるのかを学び、子どもと家族の健康段階や生活背景に応じた、健康増進・健康回復に向けた看護の基本的な考え方を学ぶため、【健康障害をもつ子どもと家族の看護】を設定した。さらに、疾患や障害を持つ子どもと家族が生き生きと生活できるよう、身体的・精神的・社会的援助の方法について創造することができるようになるため、【健康障害をもつ子どもと家族の看護実践】を設定した。

そして、あらゆる健康段階と発達段階にある子どもと家族の成長・発達を促進し、健康障害をもつ子どもの苦痛の緩和と早期回復に向けた看護と、子どもと家族の尊厳と権利を擁護した看護の実践ができる力を養うため、【子どもと家族の健康を支える実習】を設定した。

ねらい

「子ども」から「おとな」への成長・発達過程を理解し、健やかな成長・発達を促すための「子どもと家族」への支援を学び、子どもを主体的な存在としてとらえた看護を考えることができる。また、健康を障害されることが「子どもと家族」にどのような意味を持つのかを学び、あらゆる健康段階や状況に応じて「子どもと家族」の健康増進・健康回復に向けた看護の役割が理解できる。

さらに、健康障害を持つ「子どもとその家族」の置かれている状況を理解し、「子どもとその家族」が生き生きと生活できるための看護実践を、保健・医療・福祉及び子どもの権利から考えることができる。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
子どもの成長・発達と健康支援	1	30	小児期から大人への成長・発達過程を理解し、健やかな成長・発達を促すための子どもとその家族への支援を学ぶ また、子どもの権利について学び、子どもを主体的に捉えた看護を理解する	I. 子どもとは II. 小児看護の変遷 III. 子どもを取り巻く社会 IV. 子どもの権利 V. 子どもの成長・発達 VI. 発達段階による子どもと家族の支援
健康障害を持つ子どもと家族の看護	1	15	健康障害をもつ子どもとその家族を理解し、あらゆる健康段階や状況にある子どもと家族の、健康増進・健康回復に向けた看護の役割を理解する	I. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 II. 外来における子どもと家族の看護 III. 子どもによくみられる症状とその看護 IV. 様々な状況にある子どもと家族の看護
健康障害を持つ子どもと家族の看護実践	1	30	疾患や障害をもつ子どもとその家族の置かれている状況を理解し、子どもと家族に対しての看護実践を保健・医療・福祉及び子どもの権利を擁護した看護の実践を理解する	I. 子どものケアに必要な看護技術 II. 子どもと家族のアセスメント

—精神看護—

<科目設定の理由>

現代社会は、目覚ましい科学技術の発展と共に、目まぐるしく変化する高度な情報化と複雑化の中にある。その環境の中で人々はストレスにさらされ、こころのバランスをくずしたり、こころの健康を損なうことはあらゆる人々に起こりうる。そして様々な悩みや問題と向き合うことで人々はより成熟し成長していく。

そこで、精神看護では、あらゆるライフサイクルにある人々と家族を対象に、こころの健康を維持するための精神看護の目的や役割についての理解をめざす科目として、【ライフサイクルとこころの健康】を設定した。そして、精神機能障害の発症に影響する要因や、その症状と診断、検査、治療の考えかたについて理解するための科目として、【精神機能障害の理解】を設定した。また、こころの機能を障害することによる日常生活への影響を理解し、対象を生活者としてとらえ、こころの機能の障害の経過に応じた看護を提供できることをめざすことを理解する科目として、【こころの健康障害と看護】を設定した。また、精神看護は、自己を道具にし、対象と相互作用をさせながら看護を展開していく。そのために、基礎看護学で学んだ人間関係を成立発展させる技術を基盤にし、治療的人間関係について学んでいく科目として、【こころの健康障害と看護実践】を設定した。

そして、すべてのライフサイクルにおけるこころの健康について理解し、こころの健康を維持するための援助、及びこころのバランスをくずしている人々や、精神機能に障害をもつ人とその家族に対する援助について理解するための科目として【こころの健康障害をもつ人を支える実習】を設定した。

ねらい

現代社会に生きるすべての人々の、ライフサイクルにおけるこころの健康について学び、こころの健康を損なった人々の生活の質を向上させるための支援を理解し、実践する。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
ライフ サイクルと こころの健康	1	15	現代社会に生きるすべての人々の、ライフサイクルにおけるこころの健康について学ぶ。また、こころの健康を保つための社会や家族、医療と看護の役割について理解する	I. こころの健康とは II. 精神看護の目的と役割・歴史 III. 精神保健とは IV. こころの発達と健康 V. 社会との関わりと人間 VI. リエゾン看護、感情労働 VII. 精神看護の場と連携・協働
こころの 健康障害と 看護	1	30	こころの健康を障害したすべての人々と、家族や環境の特徴や影響を理解し、その人らしく生きるための生活の質を高める看護について学ぶ	I. 精神保健福祉法 II. 急性期看護 III. 行動制限 IV. 慢性期看護 V. 包括的暴力防止 VI. 各種治療方法 VII. 症状に応じた看護 VIII. 患者-看護師の関係 IX. 地域移行支援 X. 精神看護における倫理 XI. 事例から学ぶ
こころの 健康障害と 看護実践	1	30	こころの健康を損なったすべての人々の生活の質を向上させるため、対象を理解する方法を学ぶ 治療的人間関係をつくるために、関わり方を実践し、他者理解、自己理解を深める。心の健康を損なったすべての人々を支援する方法を理解する	I. 導入、患者、看護師間の関係性を理解する II. 治療的人間関係を考えるための技術 III. 患者との治療的関わりを深めるために IV. 治療的人間関係を考える VI. 自己洞察を深化する VII. ケアの原則と方法 IX. 治療的人間関係に必要なこととは

授 業 科 目 の ね ら い

— 看護の追求 —

(8 単位 195 時間)

看護は、統合されたものであり、チームや組織の中で発揮され、発展していく。また、看護は、国民のニーズに対応し、活躍の場を広げ、質の高い看護を追求し、提供することが求められている。この科目群では、医療を取り巻く環境の変化に対応し、本校の理念にある看護実践能力の育成をめざし、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用できるように、より臨床に近い擬似環境での学習を充実させた。安全な看護を提供するための判断力と実践力を身につけられるよう【医療安全と看護】【医療安全看護実践】を設定した。災害時の救護活動を学び、国際貢献についても考えられるよう【災害医療と看護】を設定した。

看護サービスが対象に提供できるためのしくみと調整の実際を学び、看護師としての自己のキャリアを考える機会とするために【看護マネジメント】を設定した。疑問、自己の課題などを探求・追求する態度を養うために【看護の探求】を設定した。

学んだ知識と技術を統合し看護実践に結びつけることができるように【教育的ケア】【臨床判断トレーニング】を設定した。チームの中での役割を考え、周囲との関係調整をはかれるようになるため他学科と学ぶ【チーム医療演習】を設定した。看護師の「実践の中の知」から人的資源・物的資源・経済の活用など看護におけるマネジメントについて学ぶために、「看護マネジメント実習」を設定した。

ねらい

学んだことを統合し、チームや組織の中、多様な場で発揮できる能力を身につける。生涯学び続ける姿勢を身につける。

科 目	単位数	時間	ねらい	教育内容
医療安全と 看護	1	15	看護業務と医療事故の構造を理解し、事故防止の考え方と知識を習得し、安全な実践力の基礎を養う	I. 医療職者の安全努力の責務 II. 医療事故の考え方 III. リスクマネジメント IV. 看護師の業務上の健康障害の防止
医療安全看護 実践	1	15	医療安全の知識、事故予防の技術を統合し、医療安全を守る看護師としての態度を身につける	I. 危険予知トレーニング II. 医療事故シミュレーション体験
災害医療と 看護	1	15	災害が地域の人々の生活や生命に及ぼす影響を理解するとともに、社会における看護の役割と必要な災害時の救護活動について理解する	I. 災害概論 II. 災害時の看護活動 III. 被災者への看護ケア IV. 災害救護活動
教育的ケア	1	30	教育指導の実践を行い、教育的なかかわりについて理解する	I. 教育の対象と教育計画 II. 教育実践 III. 教育実践の評価
臨床判断 トレーニング	1	30	既習の知識や修得した技術をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できる実践力を養う	I. 臨床実践能力のプロセス II. 事例を用いた臨床判断トレーニング
看護 マネジメント	1	15	看護サービスが対象に提供できるためのしくみと調整の実際を学ぶ 看護師としての自己のキャリアを考える機会とする	I. 看護管理システム II. 組織 III. リーダーシップとフォローシップ IV. 資源の管理 V. ライフサイクルとキャリア VI. 諸外国における保健・医療・福祉の課題

<p>看護の探求</p>	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>看護研究の基本について学び、興味・関心から問題解決のためのプロセスを理解し、自己の学習、体験を整理しその法則性、共通性あるいは、疑問、自己の課題などを探求・追求する態度を養う</p>	<p>I. 研究と実践活動 II. 研究の種類と特徴 III. 事例研究の重要性 IV. 事例研究の進め方 V. 事例研究の実際 VI. 看護研究のクリティーク VII. 研究における倫理 VIII. 自己の体験の掘り起こし IX. 体験の意味づけ X. 法則性・共通性の発見 XI. レポート・論文まとめ</p>
<p>チーム医療演習</p>	<p>1</p>	<p>30</p>	<p>対象が、入院治療中に行われている看護師と多職種の連携から、看護師の役割を理解する</p>	<p>I. 多職種の役割 II. 診断のための連携（検査部門） III. 円滑な治療を進めるための連携（工学部門） III. 事例の問題解決 IV. 看護師の役割</p>